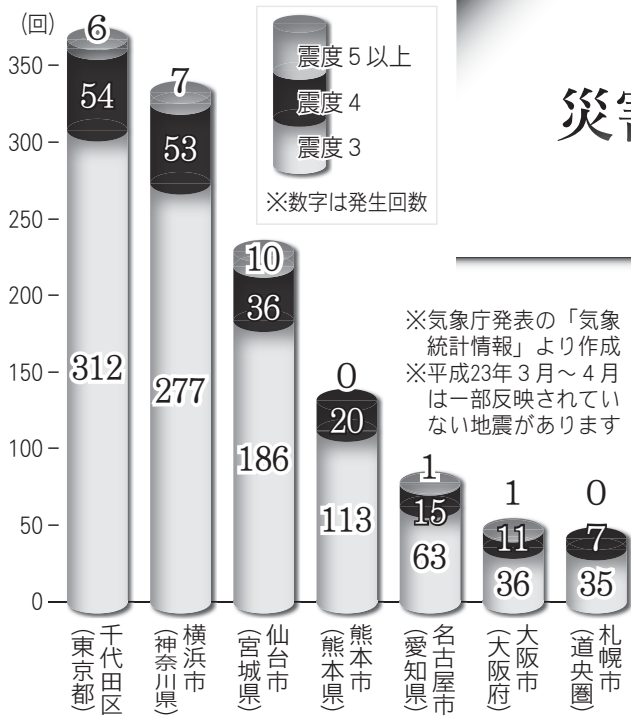


図1：震度3以上の地震発生回数
(大正15年1月～
平成23年4月の85年間)



千歳の魅力

その

1

災害が少ない、災害に強い

リスク分散に対応した企業誘致



sales point

「リスク分散対策」 に集まる注目

3

月に発生した東日本大震災。巨大な地震とそれにとまなう大津波により、東北地方を中心に甚大な被害を受けました。

今、企業では事業継続計画（BCP）の策定・見直しや災害などに備えて企業の機能を分散させる「リスク（危険）分散対策」への取組が重要になっていきます。

市は、この動きに対応して「リスク分散対応型企業誘致」を進めています。

地震が少ない

千

歳を含む道央圏は、地震が少ない地域です。気象庁の観測データでは、震度5以上の地震は大正15年からの85年間に一度もありません。

図1のとおり、地震発生回数は、ほかの都市と比較して少なくなっています。震度1以上の地震の合計でも、道央圏（札幌市）の発生回数は468回で、東京都千代田区（3,751回）の8分の1以下です。

また、今後30年間に震度6弱以上の地震が発生する確率は最大6%以下で、関東、東海、中部などと比較して低い地域とされています（図2）。

津波・塩害がない

道

央の内陸部に位置する千歳は、海岸線から太平洋側（苫小牧市）で約20km、日本海側（石狩市）で約50km離れているため、津波の心配はありません。また、塩害の心配もないため、海岸に近い都市と比較して、工場の建物や設備などの耐久性が向上します。

台風・落雷が少ない

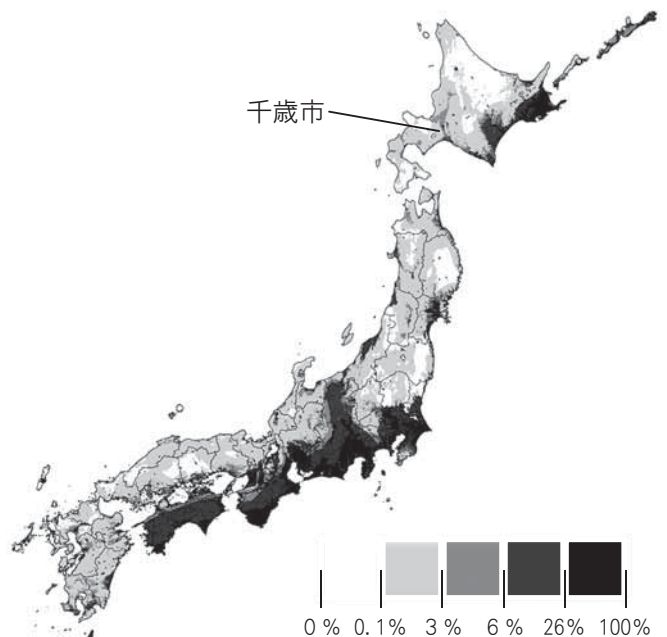
北

海道は、台風の被害が少ない地域です。

北海道に到達するところには台風力が弱まっていることが多く、過去50年間の平均台風接近数は、関東地方より南の地域と比較して約半分となっています（図3）。

また、落雷の発生も少ない地域です。そのため、工場の電気設備などが落雷によって被害を受ける危険が少なくなります。

図2：今後30年間に震度6弱以上の地震が発生する確率



※出典「全国地震動予測地図・2010年版」

図3：1年間に接近する台風の数（過去50年間の平均）

